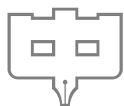


学校だより



そっ たく
啐 啄

令和8年4月10日
大津市立瀬田中学校
校長 沖本 光史

新年度が始まり、4月9日の入学式では、291名の新1年生を迎え、新2年生254名、新3年生299名、計34学級、844名と92名の教職員で瀬田中学校八十年目がスタートしました。

あらためまして、この4月に本校校長として着任いたしました おきもと みつふみ 沖本 光史 と申します。

長年に渡り先輩諸氏が築いてこられた輝かしい礎に、八十周年を迎える瀬田中学校に新たな歴史と業績が刻めるよう、生徒のみなさんとともに精一杯取り組みますので、どうぞよろしくお願ひします。

さて、『啐啄(そったく)』という言葉について述べたいと思います。

『啐』はひなが卵の殻を破って出ようとして鳴く声、『啄』は母鳥が殻をつつき割る音で、「呼吸がピッタリと合うこと」「またとない好機」という意味です。



13歳から15歳という中学生の年代は、肉体的にも精神的にも大きく成長する時。

「大人」になろうという自分と「こども」のままでいたいという自分が体の中に存在し、時には自分の意思に関係なく、それぞれの自分が日によって目まぐるしく変わって現れます。そんな生徒たちの姿を「啐」と考えますと、我々大人にとって「啐啄」は、生徒たちの心や行動が揺れ動いている時に、生徒たちの成長を助ける絶好の機会ととらえて、家庭と学校がぴったりと呼吸を合わせることだと思っています。家庭と学校そして地域の暖かいまなざしのもと、すべての生徒たちにとって、この1年間の“今しか体験できない場面や機会”が、「啐啄」という意味のとおり、大人への成長の“またとない好機”になることを強く願っています。

始業式での話 ～「自分で選ぶ」ことの大切さ～

- 学校生活では日々さまざまな選択があり、それを意識して自分で選ぶことで成長につながる。
具体的には、2年生は先輩としての行動を、3年生は自分の進路に向けた主体的な行動を選ぶ。
- うまくいかないときもどう行動するかは自分で選べる。その積み重ねが1年後の自分をつくる。
- 一年後に「自分で選んでよかった」と思えるように。



し っかりあいさつ
じ かんを守る
み だしなみを整える



校訓の示す「生徒が目標に向かって必要な支援のもと、主体的に考え、行動できる人に育つ」よう、さまざまな仕掛けをしていきたいと思ひます。
よろしくお願ひいたします。

4月8日の本校の桜